



食環協

ニュース 127

編集／発行 公益社団法人食品容器環境美化協会 〒108-0023 東京都港区芝浦2-15-16 田町K・Sビル6階
TEL 03-5439-5121 FAX 03-5476-2883 HP <http://www.kankyobika.or.jp>

地域のために、地域とともに行う美化活動を表彰

「第16回環境美化教育優良校等表彰式」が開催されました

去る1月29日(金)、「浅草ビューホテル」(東京都台東区)3階「祥雲の間」において「第16回環境美化教育優良校等表彰式」が開催されました。16回目を迎える今年は、表彰校の児童および教職員を始め、行政や飲料団体関係者、さらには各地域の報道機関から多数の参加をいただきました。朝から冷たい雨が降り続く一日となりましたが、会場は功績を賞賛する盛大な拍手とともに温かい祝福ムードに包まれました。

この表彰は、環境美化教育に独創的、継続的かつ熱心に取り組み、「公共の場所の美化」または「飲料あき容器等のリサイクル」を実践し、地域の環境美化に大きく寄与している小・中学校等を選出し表彰するものです。

本年度は、40都道府県から推薦を受けた小・中学校40校の中から、審査会による厳正な審査を経て、最優秀賞となる「文部科学大臣賞」「農林水産大臣賞」「環境大臣賞」「協会会長賞」の4校が選定され、表彰の運びとなりました。なお、優秀校6校、優良校30校の表彰校については、P9に掲載されています。



表彰式・懇談会レポート

表彰式では冒頭、当協会の構成団体であるアサヒビール株式会社常務取締役の塩澤賢一会長があいさつし、表彰事業の歴史を振り返りながら意義について述べました。その後、賞状授与に先立ち、表彰校4校の活動内容をスライド映像で紹介。各校の児童が住民と連携して、地域特性を生かした環境美化活動に励む様子が動画やスライドを通して披露されると、参加者は熱心に聞き入り、時折メモをとる光景も見られました。

賞状・副賞授与に続いて、審査委員長の小澤紀美子・東京学芸大学名誉教授が登壇。審査の評価基準に触れながら講評し、「地域の方々と一体となって環境美化活動を行うことで、学びが学校の校舎や教室を超えながら、地域が屋根のない学校になって、活動への共感を広く発信していくことが重要」であることを強調しました。



また、来賓として出席された文部科学省の仲邦章氏、農林水産省の岩瀬忠篤氏、環境省の鈴木弘幸氏からは、「教科横断的な環境教育や地域住民と取り組む美化活動を通じて児童生徒が心豊かに成長し、今後も継続されることを期待しています」と祝辞を賜りました。

表彰式典後は、東京スカイツリーが一望できる28階「ベルヴェデーレ」に移動し、懇談会が和やかに行われました。塩澤賢一会長のあいさつ並びに乾杯の後、懇談会がスタートすると、参加者の各テーブルでは食事や飲み物を囲みながら、あらためて受賞を祝福する声があがったり、テーブルを超えた交流が生まれたり、終始歓談の花が咲きました。途中、受賞校の児童による環境美化活動の紹介が行われました。今年は、4校の受賞校がすべて小学校ということで、小学生ならではの工夫を凝らした寸劇やスピーチが披露され、会場は大いに沸きました。

■ 出席者のスピーチ（要旨）

地域社会と連携した美化活動で、 校舎や教室を超え地域が屋根のない学校に

審査委員長 東京学芸大学名誉教授 小澤 紀美子氏



今年最優秀校に選ばれた学校においては、周囲に広がる貴重な資源に着目し、地域社会と連携しながら独創性豊かに継続して環境美化活動に取り組んでいる点が高く評価されました。また、アルミ缶やペットボトルの回収、道路の清掃活動などを通じた活動が広がり、学びが教室や学校を超えている様子がうかがえ、「子どもたちは教科書だけで学んでいるのではない」との思いを新たにいたしました。いま、地域社会では、児童生徒さんたちの「生き方モデル」が見えにくくなっています。しかし、本日受賞された4校では、さまざまな環境美化活動で多様な大人たちと関わることで「他者とのつながり」や「多様な生き方」を学びながらモデルを見つけています。それは地域の方の刺激にもなり、「地域が屋根のない学校」になった素晴らしい教育だと思います。

環境を守るという気持ちを忘れずに、心豊かに成長することを期待

文部科学省 初等中等教育局 教育課程課 専門官 仲 邦章様

自然環境に関心を持つことは、人類を始めとする地球上の生物が生きていくために必要なことです。文部科学省では、社会科や理科、技術家庭科など環境問題に関連のある教科を中心に、環境教育の推進を行っています。また、教員を対象とした研修活動も行っているところです。本日、文部科学大臣賞を受賞した広島県福山市立服部小学校は、地域の方々と一体的に主体的に美化活動を行っていること、1年を通してホタル学習をするなどとても素晴らしい学習をされています。他にも受賞されたみなさまを含め、これまでの経験を活かして引き続き環境問題についての理解を深めながら限りある資源を大切に活用することや、自然環境との調和について考えるなど、今後も自分が環境を守るという気持ちを忘れずに心豊かな人間に成長されることを願っています。



美化活動で育まれた公共奉仕の精神が、 今後の人生や日本の社会発展に寄与する

農林水産省 大臣官房 審議官 岩瀬 忠篤様

今回、優良校として表彰や推薦された各校におかれましては、日頃より空き缶やペットボトルなどの散乱防止活動やリサイクル活動に積極的に取り組まれていると聞いております。これらの活動を通し、公共奉仕の精神や環境保全に対する意識は必ずや皆さんの今後の人生において、また将来の日本経済社会の発展に寄与するものと思われました。農林水産省では、食品産業などと連携し、食品ロスや食品残さを始めとする食品廃棄物の発生抑制に注力しているところです。こうした取り組みについて、ご参集のみなさま方のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。受賞校のみなさまのますますのご活躍をお祈りするとともに、今回、農林水産大臣賞を受賞された、世界農業遺産認定の七尾市の小学校で取り組んでいるような活動が一層活発になることを願っています。



10年後の姿をイメージしながら 環境美化活動に取り組むことが重要

環境省 大臣官房 廃棄物リサイクル対策部企画課 リサイクル推進室 室長補佐 鈴木 弘幸様



環境美化教育優良校表彰は今年で16回目を迎えたと伺っております。最初の受賞者は、今年で、中学生だった場合は31歳、小学生だった場合は28歳と、社会の最前線で活躍されている年齢になっていると思います。その方々が社会の中で環境のことを考え、まわりに発信してくれているに違いないと思っています。本日、みなさま方の活動について拝見いたしました。こうした活動を続ける上で、大切なことが一つあると感じております。皆さんの回りで環境美化活動に取り組まれている川や海、森や林、住む町そして学んでいる街、大切な学校、それらの10年後の姿をぜひイメージしてどういう街にしたいのか、どんな環境について考えられるのか、そんなことをイメージしながら活動して頂けたら、取り組みがさらに広がるのではないかと考えています。

■ 最優秀校の活動紹介および出席者インタビュー

児童一人ひとりの生活に根付いた美化活動が愛郷心を育む

文部科学大臣賞 広島県 福山市立服部小学校 はっとり



ホタルが舞う清流、服部川のほとりに建つ同校では、地域の特性を生かした環境保全活動が盛んだ。ホタルの里を守ろうと、児童の発案で2004年に開始した「服部川クリーン大作戦」は、川沿いに散乱しているペットボトルや空き缶などの資源ごみを分別回収する活動で、手作りチラシで地域に参加を呼びかけるなど、児童が主体的に取り組んでいる。また、児童が各家庭を回りながらアルミ缶などを回収するリサイクルも1975年から続く他校の模範となる活動だ。こうした活動を続ける中で、住民の意識も向上し、生活排水などの影響でホタルが減少したのが契機となり、地域に「服部の自然を守る会」が発足。児童は、その会の協力を得てホタル学習を行い、ホタルの飛翔数調査や飼育、幼虫の放流など年間を通して取り組む。学んだことは地域行事で発表し、多くの来場者に豊かな地域環境をアピール。さらに、児童は、洗剤の代わりとなるアクリルたわし作りにも挑戦し、住民に配布しながら環境保全を訴えるなど、生活に根付いた美化活動が愛郷心を育てている。

広島県福山市立服部小学校の皆さん

「地域や保護者の協力の下、長い間受け継がれてきた服部小の取り組みが注目されたことや、評価されたことをとてもうれしく誇りに思います。これからも、この活動を引き継ぎ、ホタルや自然を通して多くの人が集うあったかい場所であってほしいと思っています」

広島県関係者および広島地方連絡会議員 ポッカサッポロフード&ビバレッジ(株) 中四国支社 広島支店 課長代理 伊藤 容功氏 (写真左)

「服部小学校は児童1人ひとりが自ら考え、長年にわたり環境学習を積極的に行っており、地域一体となった活動に発展している素晴らしい取り組みです。地連としては、受賞を機に、環境美化活動をさまざまな場所で盛り上げていきたいと考えています」



住民と協働で里山里海を守る美化活動が防犯意識を高める

農林水産大臣賞 ^{てんじんやま} 石川県 七尾市立天神山小学校

七尾城跡が残る城山のふもとに位置し、七尾湾に注ぐ大谷川が近くを流れる同校。以前の大谷川の下流はごみが散乱して濁っていたが、地域が一体となって清掃活動を行うことでごみが減少してきた。その取り組みの一つが「大谷川クリーン大作戦」。児童が、住民と協働で川周辺に散乱している空き缶やペットボトルなどを分別しながら回収する活動で、毎年300名以上が参加する。「城山クリーン大作戦」も地域全体で行う取り組みで、資源ごみの回収などに励む。こうした児童と地域が連携した活動が広がりを見せる中、その土台となった大切な取り組みが「健全パトロール」だ。地域団体と6年生の児童が月2回、通学路をパトロールしながら資源ごみを回収する活動で、これをきっかけに、ごみのポイ捨てが減少しただけではなく、犯罪件数も大幅に減るなど、防犯意識向上にも一役買っている。2011年、能登の里山里海は世界農業遺産に認定された。児童は、スーパーなどに手づくりの環境ポスターを貼るなど、美化活動に励みながらふるさとを愛しむ心を養っている。



石川県七尾市立天神山小学校の皆さん

「私たちが活動してきたことが認められてとても光栄です。これからも、地域の人たちと一っしょに美化活動を行っていききたいと思います。そして、世界農業遺産に選ばれた七尾市が豊かで美しい環境であるように、後輩にこの取り組みを引き継いでいきたいです」

七尾市関係者および北陸地方連絡会議員 北陸コカ・コーラボトリング(株) 広報環境部 部長 岡田 裕之氏 (写真左)

「七尾市では、すべての学校において地域の伝統文化を育て、地域と関わりながら環境学習を進めていますが、今回の受賞はその成果だとうれしく思っています。今後も継続することが重要ですので、その活動を広げる一助となるよう地連として取り組んでいきたいです」

地道に積み重ねた美化活動が新たな地域おこしに発展

環境大臣賞 青森県 八戸市立種差たねさし小学校



海沿いに海浜植物が咲き誇る種差海岸は2013年、三陸復興国立公園に指定された。その景勝地に抱かれるように建つ同校では、国立公園認定の20年以上前からさまざまな美化活動に取り組んできた。1991年から開始したのが「ごみ拾い登校」で、児童は通学路に散乱しているペットボトルなどを回収しながら登校する。住民の協力を得て行うアルミ缶リサイクルも、長年にわたる取り組みだ。こうした活発な活動は社会性をも磨き、児童はいつそう地域へ目を向けるようになった。2009年からは地域団体の指導の下、海岸沿いに繁殖する特定外来生物「オオハンゴンソウ」の駆除を開始。同校が参加したのが契機となり、他校や住民の協力体制が整った結果、駆除の効果が現れてきた。地域を自慢できるようになった児童は、観光客をおもてなししようと、地元産のふのりや海藻を使用したお菓子を作って販売するプロジェクトをスタートさせた。同校の児童数は26名と減少を続けるが、地域の積極的な支援を受けて、ふるさとを守り育てる地域おこしに発展している。

青森県八戸市立種差小学校の皆さん

「地域の人たちと継続して続けてきた日ごろの取り組みが評価されて素晴らしい賞を頂き、とても自信につながりました。今後は、たくさんの観光客が集まる活気ある町や地域にしていきたいし、そんな種差のよさを発信していく小学校にしていきたいです」

青森県関係者および青森地方連絡会議員
みちのくコカ・コーラボトリング(株) 営業企画部
PRグループ グループリーダー 岡田 雅文氏 (写真左)

「北東北エリアでは、少子高齢化問題が深刻で、小規模校が他県よりも多い状況下、種差小学校のように、小さいながらも地域一丸となって環境美化活動に取り組んでいる学校が最優秀賞を受賞し嬉しい限りです。これを機に、先進事例として県全体に広げていきたいです」



ふるさとの自然を受け継ぐ意思を育てる美化活動

協会会長賞 徳島県 海陽町立^{ししくい}穴喰小学校

美しいサンゴが群生する海に、天然記念物のヤッコソウが自生する山、絶滅危惧種に指定されているシマドジョウが棲息する川など、希少な自然に囲まれた同校。その環境を守るために、児童は年間を通して地域と連携した美化活動に取り組んでいる。海では、海岸清掃を行い空き缶やペットボトル、漂着ごみなどを回収・分別。住民に聞き取り調査を進める中で、水質の悪化などが原因で海中のエグミドリイシサンゴが減少していることを知った児童は、漁業関係者の協力の下、折れたサンゴのかけらを石に固定する移植作業をスタートさせた。海的环境を通して、自然がつながっていることを実感した児童は、山や川にも着目。山では、林業関係者の協力を得て、ドングリを採取し、山に植樹している。川においては、同校の前を流れる穴喰川の水質・生き物調査を行いながら、状況を把握し分析する。その結果は、環境新聞などにまとめて図書館などに掲示しふるさとの魅力を発信。美化活動を通じて、児童には穴喰の豊かな自然を受け継ごうという心構えが培われている。



徳島県海陽町立穴喰小学校 校長 吉成 高志氏

「今回頂いた栄えある賞は、今の児童たちだけではなく、ずっと受け継いできた先輩方の取り組みがあったからだと思います。また、地域の皆さんにさまざまなことを学びながら活動する中で、穴喰の素晴らしさをわかってもらえるきっかけになればと考えています」



徳島県・海陽町関係者および徳島地方連絡会議員
四国コカ・コーラボトリング(株)

徳島支店 支店長 渋谷 純一氏 (写真左から2番目)

大塚製薬(株) 徳島本部環境・安全部 課長 朱 吉男氏 (写真左)

「地域住民とともに継続して地道に行ってきた環境美化活動において、2年連続で徳島県が最優秀賞を受賞したことに対し、あらためて誇りに思います。今後も、徳島県の自然や文化、環境をアピールしながら取り組みを広げていきたいです」

■ 第16回 環境美化教育優良校等表彰 表彰校

最優秀校 (4校)

- 文部科学大臣賞 広島県 福山市立服部小学校 はっとり
- 農林水産大臣賞 石川県 七尾市立天神山小学校 てんじんやま
- 環境大臣賞 青森県 八戸市立種差小学校 たねさし
- 協会会長賞 徳島県 海陽町立穴喰小学校 ししくい

第16回 環境美化教育優良校等表彰 最優秀
主催：公益社団法人 食品容器環境美化協会 後援：文部科学省 農林水産省



優秀校 (6校)

- | | |
|--------------------------------------|-----------------------------------|
| 岐阜県 大垣市立西部中学校 <small>せいぶ</small> | 京都府 福知山市立成和中学校 <small>せいわ</small> |
| 鳥取県 八頭町立郡家東小学校 <small>こおげひがし</small> | 高知県 高知市立横浜中学校 <small>よこはま</small> |
| 熊本県 八代市立日奈久小学校 <small>ひなぐ</small> | 宮崎県 串間市立市木小学校 <small>いちぎ</small> |

優良校 (30校)

- | | |
|---------------------------------------|--|
| 北海道 網走市立第四中学校 | 岩手県 雫石町立御明神小学校 <small>おみょうじん</small> |
| 宮城県 石巻市立石巻小学校 <small>いしのまき</small> | 山形県 南陽市立赤湯小学校 <small>あかゆ</small> |
| 福島県 川俣町立富田小学校 | 茨城県 つくば市立さくら学園桜中学校 |
| 栃木県 鹿沼市立北押原中学校 <small>きたおしはら</small> | 群馬県 みなかみ町立月夜野中学校 <small>つきよの</small> |
| 埼玉県 鶴ヶ島市立栄小学校 | 千葉県 市川市立大洲中学校 <small>おおす</small> |
| 東京都 清瀬市立清瀬小学校 <small>きよせ</small> | 新潟県 糸魚川市立下早川小学校 <small>しもはやかわ</small> |
| 富山県 砺波市立砺波南部小学校 <small>となみなんぶ</small> | 福井県 南越前町立南条中学校 |
| 山梨県 富士吉田市立明見中学校 <small>あすみ</small> | 長野県 松本市立会田中学校 <small>あいだ</small> |
| 静岡県 裾野市立東小学校 <small>ひがし</small> | 愛知県 あま市立甚目寺南中学校 <small>じもくじみなみ</small> |
| 大阪府 千早赤阪村立中学校 <small>ちはやあかさか</small> | 兵庫県 神戸市立有馬小学校 <small>ありま</small> |
| 奈良県 香芝市立香芝西中学校 <small>かしぼにし</small> | 島根県 出雲市立湖陵中学校 <small>こりょう</small> |
| 山口県 田布施町立田布施中学校 <small>たぶせ</small> | 香川県 坂出市立府中小学校 <small>ふちゅう</small> |
| 愛媛県 松山市立味酒小学校 <small>みさけ</small> | 福岡県 北九州市立白野江小学校 <small>しろのえ</small> |
| 佐賀県 小城市立三里小学校 <small>みさと</small> | 長崎県 平戸市立平戸小学校 <small>ひらど</small> |
| 大分県 豊後高田市立真玉中学校 <small>またま</small> | 鹿児島県 南さつま市立金峰中学校 <small>きんぼう</small> |

■ 優秀校・優良校の表彰状等授与式の開催

第16回環境美化教育優良校等表彰事業において、全国の小・中学校の中から優秀校、優良校に選出された学校を表彰する授与式が各都道府県で開催されました。授与式は、受賞校の校長室や体育館、県庁及び市役所、公共施設などの会場で、学校関係者を始め、行政、地連、報道機関各位が見守る中、和やかに行われました。その様子と受賞校の活動内容を一部紹介いたします。

【優秀校】受賞校6校のうち2校を抜粋紹介

岐阜県 大垣市立西部^{せいぶ}中学校

24年にわたり続いている「救環挑（きゅうかんちょう）」と名付けられたリサイクル活動で、約800名が参加して行われる。主に、アルミ缶や牛乳パック、段ボールなど資源物を定期的に収集する伝統行事で、活動で得た資金をさまざまなところへ寄付し、環境美化で貢献できる仕組みづくりを工夫している。この活動後は、地域のごみが減少し、住民たちからは感謝の声が寄せられるなど生徒の意欲化に直結。また、高齢者の資源物を運ぶ手伝いをしたり、通学路周辺のごみ拾いを率先したりするなど、美しい街づくりにも貢献している。



「先輩方から引き継いできた活動を、現在も全員で取り組むことをモットーに続けているのは誇りに思います。一人ひとりが環境保護に役立つことを考えた取り組みが認められてとてもうれしいです」

授与式の出席者 ●岐阜県大垣市立西部中学校の皆さん
●三重岐阜地方連絡会議 佐伯忠信氏（株式会社伊藤園）、伊東秀高氏（コカ・コーライーストジャパン株式会社）

熊本県 八代市立日奈久^{ひなぐ}小学校

隣接する中学校と連携し年1回、校区の清掃活動を実施。コース別に中学生と小学生がペアになって空き缶やペットボトルの資源ごみなどを回収する活動で、老人会や婦人会からの参加もあり、学校と地域の貴重な交流の機会になっている。児童は月2回行われる地域資源回収にも協力し、住民とともに資源ごみの回収や分別に励む。校内においては、節電・節水・ごみの減量、残食ゼロの目標を掲げることで環境意識が向上、実践につながっている。また、児童が育てた花の苗を地域に配布する花いっぱい運動も盛んで、多くに住民に喜ばれている。



「これまでエコ活動を頑張ってきたことが評価されてうれしいです。これからも、地域の協力のもと、環境美化の取り組みを行いながら、さまざまな人にこうした活動の大切さを知ってもらいたいです」

授与式の出席者 ●熊本県八代市立日奈久小学校の皆さん
●熊本県環境生活部環境局環境立県推進課 岡 誠司郎氏
●熊本地方連絡会議 森高 吉宏氏（コカ・コーラウエスト株式会社）

【優良校】受賞校30校のうち4校を抜粋紹介

^{いしのまき}
宮城県 石巻市立石巻小学校

明治6年開校の同校では、市内の中心校として地域美化に積極的に取り組む。その1つが、校区内にある公園4か所の清掃・ごみ分別活動。中でも震災後訪問客が激増した日和山公園の清掃は、地域貢献に加え復興支援にも寄与。児童の取り組む様子は地域にも浸透し、現在では住民を巻き込む活動に発展している。環境委員会を中心にした3R活動も盛んだ。



「日和山公園などの公園清掃を毎年欠かさず行ってきたことで、今回このような賞をいただくことができ、とてもうれしく思います。このことを励みに、これからも清掃活動を続けていきたいと思います」

- 授与式の出席者 ●宮城県石巻市立石巻小学校の皆さん
●宮城地方連絡会議 堀井 貴志氏(キリンビールマーケティング株式会社)



^{なんじょう}
福井県 南越前町立南条中学校

昭和49年から続く伝統行事で、生徒会の企画・運営により公共施設などの清掃活動を実施。クラスごとに施設担当者と事前調整しながら本番を迎えるなど、住民との触れ合いを通して地域への感謝の気持ちが培われている。平成26年度からは、町内「花はす早朝マラソン大会」の運営ボランティアスタッフとして、多くの生徒が参加し、紙コップの回収などを行う。

「地域の環境を未来へと引き継ぐ意義のある活動だと思っていますので、これからも続けていきたいです。住民たちからの『ありがとう』という感謝の言葉が、何よりもやる気につながっています」

- 授与式の出席者 ●福井県南越前町立南条中学校の皆さん ●北陸地方連絡会議 吉川 勝敏氏(北陸コカ・コーラボトリング株式会社)
●福井県安全環境部環境政策課 岡田 裕之氏(北陸コカ・コーラボトリング株式会社)
環境計画推進グループ 井上 美菜子氏 旅 文夫氏(北陸コカ・コーラボトリング株式会社)

^{ひがし}
静岡県 裾野市立東小学校

平成14年に開始したりサイクル活動。当初は牛乳パックの回収だけだったが、現在はアルミ缶、雑誌、段ボールなど種類が増えている。また、駐車場の一角に回収ボックスを設けて、広く地域にリサイクルを呼びかけている。毎週火曜日はアルミ缶回収日と位置づけ、地域一丸となって取り組んでいる他、道路沿いに花の苗を植えて住民とともに管理している。



「毎日コツコツとリサイクル活動をやってきたことが、今回認められてうれしい。長く続けてきている取り組みなので、今後も地域に呼びかけながら続けていきたいと思います」

- 授与式の出席者 ●静岡県裾野市立東小学校の皆さん
●静岡県くらし・環境部環境局廃棄物リサイクル課 資源循環班 中村 佐知子氏
●静岡地方連絡会議 鈴木 良輔氏(アサヒ飲料株式会社)、高橋 清一氏(コカ・コーライーストジャパン株式会社)



^{しらのえ}
福岡県 北九州市立白野江小学校

“ごみのないきれいな白野江のまちを”を合言葉に11年間、通学路や公園、海岸の清掃活動を実施している。地域団体や住民と連携して進めることで、児童は地域の一員としての自覚を持つようになり、地域の学校支援体制も整う。清掃活動を通して、ごみを拾う意識から、ごみを捨てない意識へと気持ちの変化が表れるなど、環境保全の関心が高まっている。

「学校周辺はごみの散乱が見られず、住民の環境意識が高い地域ですので、小学生も日頃から清掃美化に関心を持ち、積極的に清掃を行っています。これらの活動の一環が、受賞につながったと感じています」

- 授与式の出席者 ●福岡県北九州市立白野江小学校の皆さん
●福岡県北九州市教育委員会 指導部指導第一課 古澤 律子氏
●福岡地方連絡会議 長井 篤嗣氏(ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社)、山本 耕三氏(ダイドードリンク株式会社)

学校における環境学習の教材の一部として活用が出来ます。



自由研究・調べ学習に

「まちの美化」と「リサイクル」をテーマにした小学生用のサイトがあります!

まち美化キッズ

【サイトのご紹介】

「まち美化キッズ」は、食品容器環境美化協会が小学校高学年を対象に制作した学習 Web サイトです。児童たちの身の回りにある飲料容器「びん、かん、ペットボトル」を通して、環境美化・リサイクルの大切さや仕組みを「まち美化ってなあに?」「ポイすてストップってなあに?」「調べ学習コーナー」等、楽しく学べる構成となっています。



まち美化ってなあに?

A screenshot of the website's "まち美化ってなあに?" section. It features a colorful illustration of a town with a river and a recycling bin. Below the illustration is a text box with the title "FASA 散らかしているごみを拾う活動" and a small image of a recycling bin.

イラストや画像いりて楽しくわかりやすい!

ポイすてストップってなあに?

A screenshot of the website's "ポイすてストップってなあに?" section. It features a title "「リサイクルしたら何に変身するの?」" and a list of items: アルミかん, スチールかん, ガラスびん, ペットボトル, 紙パック. Below the list is a small video player showing a recycling process.

映像資料も あります!!

ホームページは [こちらから](http://www.kankyobika.or.jp/kids)

まち美化キッズ

検索

<http://www.kankyobika.or.jp/kids>

